

**(1)本園の教育課程(全体計画)**

**1) 教育目標 (めざす幼児像) ～生涯の土台づくり～**

- ①自育力！ ～自分でやる力を育てる～
- ②共育心！ ～共に学びあう心を育てる～

**2) 本園の教育方針 (めざす幼稚園像) ～地域から信頼される園づくり～**

- ①乳幼児期にふさわしい生活の出来る園
- ②遊びを通しての総合的な指導の出来る園
- ③一人一人の特性に応じた指導の出来る園

**(2)今年度の重点目標**

- ・サントレの充実…保育者と園児の (アイコンタクト・スキンシップの充実)
- ・たてわり保育の充実…朝の自由時間&クレヨンルーム。
- ・毎日のふり返りタイムの充実。…園児のつぶやきから「保育」をとらえる。
- ・ICT化により全園児の成長の把握。

**(3)内容と改善点**

A =十分に達成されている。 B =達成されている。 C =取り組まれているが成果は十分ではない。 D =取り組みが不十分である。 M=会議・ミーティング

<p>[1] 教育目標・教育方針 (方向目標) 教育目標や方針、保育の内容について、職員と保護者にその理解を深めるよう取り組んでいる</p>	
<p>●新教育要領に基づいた園の教育課程についての更なる理解浸透をはかる必要がある。</p>	B
<p>[2] 教育課程の編成 教育課程は、社会状況や幼児の実態、地域性などを考慮しながら必要に応じて見直す。</p>	
<p>○PDCA サイクルで、全員参加の自己評価で改善点が明確になった。</p>	A
<p>[3] 指導計画の作成と評価 互いに保育を見せ合って検討し、評価反省を加え、幼児の生活と自らの保育につなげている。</p>	
<p>○水曜M・おひさまM・クレヨンM・ふり返りタイム、ICTが徐々に効果を上げている。</p>	A
<p>[4・5] 教育環境の構成 幼児の発達に即した遊具や用具、素材などを用意している。</p>	

●0歳児と1歳児室の合同保育室の改修の必要性がある	B
異年齢の幼児が自然に交流し、学びあえるような環境構成について。	
●朝9時～10時の自由時間により計画性と担当制がほしい。	B
<b>[6] 教師同士の協力連携</b> 教職員全員が、すべての園児についてある程度理解しているようにさまざまな工夫をしている	
○ICT化によって全園児の成長を共有している。	A
<b>[7・8] 研修・研究への取り組み</b> 研修を修了した教職員が、研修内容を発表する機会を設けるなど、成果を共有する仕組みがある	
○水曜Mが十分に機能している。	A
療育専門機関と連携をはかり特別支援を必要とする幼児に対する保育の研修研究を行っている	
●キャリアパス研修に参加ができなかった。	B
<b>[9・10・11] 安全管理体制の整備</b> 緊急時（事故やけが、感染症の発生時など）の対応手順について、全教職員が共通理解をする	
○学校安全の中、①生活安全 ②交通安全には十分取り組まれている。	A
事故の発生を未然に防ぐために、園内の危険箇所や危険な遊び方などについて教職員間で話合	
○園庭改修によって、危険箇所が予防されている。	A
施設設備は常に整備され、室内は整理整頓が行き届いている。	
●倉庫の管理分担を担当化することを考える。	B
<b>[12] 保護者との協力と支援</b> 保育参観や保護者会などで、共通理解を得るように取り組んでいる。	
●役員改選問題、インフルエンザ予防と発症源への理解は課題である。	B
<b>[13・14] 地域への開放と支援</b> 地域開放や子育て支援のあり方について、教職員で話合っている。	
●「おひさまくらぶ」の参加者が少ないの課題である。	B

園がもつ専門的な技術や情報を地域に開放提供している。	
●今後の大きな課題である。	B

#### (4) 施設の改修

- 園舎外壁修復 ●園長室の移設 ●園庭の拡充 ●モンテッソーリ保育室と教具設置
- 屋外倉庫 ●LED 屋内誘導灯・園庭灯 ●職員室ブラインド ●AED 設置 ●アメリカ楓

#### (5) 今後の取り組むべき課題

白桃組の改修・サントレの群読・モンテッソーリ用語の習熟・施設機器の管理の熟達・園バス

#### (6) 学校関係者の評価

「教師の自己評価をまとめた公表シートについて園側より詳細な説明をする。各委員よりおおむね良好な教育活動と学校運営がなされているとの評価があり、来年度以降の課題について期待の弁を述べられる。」

#### (7) 公表 ①2020年2月29日の保護者総会 ②職員室での閲覧 ③HPIに掲載